
ニュータウンに住むリタリーが下北沢に行ったよ。

夕焼け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ニュータウンに住むリタリーが下北沢に行ったよ。

【コード】

N66030

【作者名】

夕焼け

【あらすじ】

ニュータウンに住むリタリーが下北沢に行ったよ。

昨日、リタは友達と下北沢に行ってきたよ。

半年振りくらいに行ったよ。

忌野清志郎のサインがあるラーメン屋に連れて行ってもらったよ。

お店の前の通りを歩いているのはみんな若者ばかりなのに、お店のドアを開けたらおじさんやおばさんばかりでびっくりしたよ。

お店の感じも、お客さんの感じもすごく昭和の匂いがして、とてもよかったよ。

古びて茶色くなった本の匂いがしたよ。

忌野清志郎のサインは2階の真ん中に飾ってあったよ。

リタは昭和の匂いがするものや場所や音楽やファッションが大好きだよ。

江戸っ子ラーメンがおいしかったよ。

キムチが入っていたよ。

辛いキムチは苦手だけど、あのお店のラーメンに入ったキムチは辛過ぎなくておいしかったよ。

うちのお母さんが普通ってた有名なジャズ喫茶が潰れてしまってた

悲しかったよ。

そのわりとすぐ近くにある、アンティークな感じのカフェでメロン
なんとかかっていうお酒を飲んだよ。

リタはメロンの味がするものが好きで、見つけると気分が高揚し
て、お金の都合とかで口にできないと、いつまでもじっとそれを見
ているよ。

メロンの味は薄かったけどおいしかったよ。

友達がおかわりを勧めてくれたけど遠慮したよ。

日曜の午後の下北沢散策する時には、一杯くらいが丁度いいと思っ
たよ。

ほろ酔い気分で気持ちよかったよ。

ふと目に付いた古着屋に入ってみたよ。

1階は新品のお店で、2階が古着屋だったよ。

古着はどれも700円くらいで、可愛い感じのもいっぱいあったよ。

1階のお店も、値段は普通だけど可愛い感じの服がたくさんあって
よさげだったよ。

友達のお気に入りのお好み焼き屋さんの前を通りかかったら、もう
閉店してしまっらしくて昨日がどうやら最後の日だったよ。

悲しかったけど、きつとああいうのって、ただ新しい若い人が引き継げばいいっていうものではなくて、きつと「切り盛りしてたおばちゃん」も、お店の重要な一部で、お店とおばちゃんの命はきつとひとつで、おばちゃんを失ったお店は、形だけをそこに残すより、あるいはおばちゃんと一緒に生きて、おばちゃんと一緒に年老いて、やがて消えるのが正しいのかもしれないなって思ったよ。

寂しいけど、きつと永遠に続くものは何一つとしてないから、それが生まれて死ぬまでを、ただありのままに受け止めて、愛して、記憶に刻んで、失われる最後をそつと見守るべきなのかなって思ったよ。

実家に帰ってお母さんにそれを話したけど、お母さんもリタと同じことを言ってる、ああ、やっぱり家族なんだなって思ったよ。

あいのりに出た人が出したっていうアフリカの民族っぽいアレが売ってるお店の店頭に、売り物のジャンベが並んで、リタはそれをかなり本気の表情で叩いたよ。

リタはリズム感が全く無いのだけど、店員さんと友達が褒めてくれたよ。

お世辞と分かってたけど嬉しかったよ。

友達が手首の怪我を隠すのに丁度いい感じのアクセサリーを一つ買ったよ。

店員さんに「音楽やってる方ですか？」って聞かれたけど、リタはジャンベなんて叩いた事なかったし、はいそうですっていったらジャンベを叩く人と間違われるかもって思って「いいえ一般の方です」

と答えたよ。

店員さん苦笑いしたよ。

店員さんかわいくて気さくでいい人だったよ。

線路の近くを通ったら、なぜか商店街の上の垂れ幕に「動物園」って書いてあったよ。

何がどう動物園なのか意味が分からなくて多少混乱したよ。

線路の向こうに行ってみたけど結局何がどう動物園なのか分からなかったよ。

でも猫喫茶があつて、それを発見した友達の目がもうヤバイ感じになってて、有無を言わさない表情だったから、リタは無言で同意せざるをえなくて、生まれてはじめての猫喫茶に入ったよ。

猫がいつぱいいたよ。

ご飯の前でみんな気が立っててあちこちで喧嘩してたよ。

ご飯食べたらみんなおとなしくなったよ。

小さくてちょっとぶさいくなのが可愛かったよ。

だけど撫でられるのを少し嫌そうにする猫もいて、嫌でも一日中誰かに撫でられてなければならぬんだなって思ったら、ちょっと可哀な気持ちになったよ。

だけど、猫喫茶で猫をじーっと眺める友達がその日一番いい表情をしてて、それを見て嬉しかったよ。

もうすぐ日が沈む頃合になったから駅に向かったよ。

駅の近くで銀色の人が立ってたよ。

置物みたいにじっと立ってるんだけど、お金をあげると動くよ。

去年家族でハワイに行った時に、同じようなのを見たよ。

ハワイには金色のもいたよ。

銀色の人が動くとき、スーパーマンのコスプレをしたちびっこが超怖がって、本気泣きながら逃げてったよ。

知らない人がお金あげたら、銀色の人、手品で飴玉を出したよ。

色んな角度から見ただけど、どうやって出してるのかリタには全然分からなかったよ。

下北沢の街は、都会のほかの街よりゆるい感じの表情で歩いてる人が多いから好きだよ。

リタはリタの住むニュータウンの街が一番好きだけど、下北沢もやっぱりいいよ。

今度またゆっくり古着とか見に行きたいな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6603o/>

ニュータウンに住むリタリーが下北沢に行ったよ。

2010年11月2日11時42分発行